

# 山本鼎・丸山晚霞ら14人の作品 東御で展示

## 地域に残した 画家たちの足跡



山本鼎らの作品が並ぶ倉沢コレクション展の会場

### 「多くの人に知ってほしい」

### 「コレクション展」寄贈した上田の倉沢紀武さん

画家や作品収集への思いを語る倉沢さん



東御市梅野記念絵画館は、上田市長瀬の倉沢紀武さん(80)が収集し、東御市に寄贈した絵画を紹介する「倉沢コレクション展」を開いている。コレクション計92点のうち、山本鼎、丸山晚霞(東御市出身)ら東信地方ゆかりの画家ら14人の近代洋画計90点を期間中に入れ替えながら展示。倉沢さんは「画家たちがこの地域に何を残したか、どう関わったか、多くの人に知ってほしい」と願っている。

倉沢コレクションで多いの 評する。作品は油彩「桜」(1908年)の人気の高い一方、山本鼎、倉田白羊の作品でそれぞれ17点を数える。山倉沢さんは写実的な「雲のかげ」(1933年)を推す。本は現在の上田市神川地区を拠点に農民美術運動、児童自由画教育を提唱した。倉田は山本に請われて同市に移住。農民美術の指導に当たり、信州を描いた。

倉沢さんは、農民美術の普及などで知られる山本に加え、倉田についても「多くの人が倉田から絵を学んだ。倉田は上田の美術の功労者」と

倉沢さんは、農民美術の普及などで知られる山本に加え、倉田についても「多くの人が倉田から絵を学んだ。倉田は上田の美術の功労者」と

もう一つの柱は、明治期の私塾「小諸義塾」ゆかりの画家たちの作品だ。絵画を教えた丸山晚霞や三宅克己、丸山

28日まで(月曜休館)。9日からの後期展示では、丸山の水彩画「高原の秋草」(1895〜98年)、三宅の水彩画「セーヌ河畔」(1902年)も並ぶ。山本、倉田、林の作品にも入れ替えがある。

入館料600円。問い合わせは同館(☎0268・61・6161)へ。

### ゆかりの芸術家 学ぶほど思い強く

「倉沢コレクション」を東御市に寄贈した倉沢紀武さんは、石油製品販売などの上燃(上田市)で社長を務めていた1990年代半ばに絵画の収集を始めた。点数が増え、収拾がつかなくなっていた」という2000年ごろ、梅野記念絵画館初代館長の梅野隆さん(故人)と出会い、その交流から収集テーマに「郷土を据えた。上田市の美術評論家、小崎軍司さん(同)の著書を読み、画家の日記、書簡などを集めて勉強。大正期から農民美術運動などをリードしてきた山本鼎、倉田白羊ら上田ゆかりの画家、丸山晚霞、三宅克己ら「小諸義塾」に関わる画家に収集の的を絞っていった。

収集する中では、作品にまつわる「物語」に触れる喜びがあった。倉田の油彩「雲のかげ」は、額の裏に「武島一義蔵」とあり、倉田との交友が書かれていた。武島について調べると、43年から2年近く鳥取県知事を務めた人物で、長野県に勤めていたことも知った。「疑問が解けたり、発見があったり。収集家にはたまらない」と語る。

学ぶほどに「後世を生きるわれわれが、信州に足跡を残した芸術家を忘れてはいけない」との思いが強まった。自分の亡き後を思い、「体系立てて集めた収集品を散逸させてはいけない」と思う一方、それを家族に託したら重荷になる「とも考えた。将来にわたる収蔵と活用を願い、2013〜16年、梅野さんとの縁などから東御市に寄贈したという。